
魔法少女リリカルなのはvivid ~ 魔法学院の魔力無し ~

スラりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはvivid魔法学院の魔力無し

【Nコード】

N8476Z

【作者名】

スラりん

【あらすじ】

St・ヒルデ魔法学院に入学した隼人。

そんな彼も9年が過ぎてもう今年で中等科三年生になる。

しかし魔力量が全く上がらない！

そんな魔力無しの彼に様々な出来事が降りかかる！！

魔法少女リリカルなのはvivid魔法学院の魔力無しが始まります！！

vivid1話（前書き）

はじめまして！

このたび執筆をさせていただくスラりんです。

初心者のため読みにくい文章になってしまっていると思いますが、
これからよろしく願います。

vivid 1話

一人の少年が学校の廊下を歩いていた。

憂鬱だあ。

歩きながらその少年はそんなことを考えていた。

「いつもの事か・・・。」

少年は教室へと続く廊下を歩いて行った。

そんな少年の名前は黒羽隼人。

ちなみに憂鬱な理由は彼がこの学園で劣等生の部類に入るからである。

劣等生と思う理由は上がらない魔力量だ。

もうずっと前の初等科から魔力が一向に上がらないのだ。

それに対して彼は常時、劣等感を抱いている。

それに見合う特技を持っているのだが。

ちなみに彼には話しかけてくる生徒があまりいない。

別に劣等生だからいじめられているというわけではない。

第一、この学校では上位成績者以外は成績の公開などはしないのでそれを知られることは少ない。

また、この学校ではそういうことに関しては厳しい。

この前もだれか一人が長時間延々と指導を受けているのを見たことがある。

ただ単に隼人は人と話したりするのが苦手なのだ。

ある程度親しくなった人なら話すこともできるが、新しい友達というものをなかなか作れない。

そんな友達の少なさも彼の憂鬱に拍車をかけていた。

しばらく歩いた隼人は一つの部屋の前で立ち止まる。

そしていつもの癖なのか看板を確認する。

3年 組、隼人のクラスだ。

「今日は何か面白いことでも起こるかな・・・。」

そう言いつつ、隼人は教室に入って行った。

vivid1話（後書き）

少し短かった気がします・・・。

次はもう少し長くしようと思います。

最後まで読んでいただきありがとうございます！
次回もよろしく願いします！それでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8476z/>

魔法少女リリカルなのはvivid～魔法学院の魔力無し～

2011年12月26日20時51分発行